

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）

県政の課題（テーマ）報告書

令和元年8月27日

山梨県知事 殿

氏 名 山本夏輝  
留 学 先 アメリカ合衆国・アイオワ州  
留学期間 平成30年8月4日  
～ 令和元年8月3日

1 研究の課題（テーマ）

障害を持った子供たちへのサマーキャンプ型エコツーリズムを求めて

2 概要

与えられた県政の課題（テーマ）の解決に導く考え方及び対応策等

私が県政のテーマのために行った活動は大きく二つです。一つ目はプレスクールでのダウン症を持った子供たちの授業へサポートスタッフと参加したことと、サマーキャンプのボランティア活動です。この二つの活動から、子供に選択肢を与える自由な教育を学びました。特にサマーキャンプでは、子供がやりたくないと言ったことに対して無理に参加させるのではなく、横に座って寄り添っていました。また、選択肢を与えて子供に選ばせることで、自主性を伸ばそうとしている働きかけもありました。ダウン症の子供たちの授業では、遊びと学びの時間をはっきりと分けることで集中力を高めていました。アメリカのサマーキャンプや授業には自由度が高く、みんなが一緒に同じことをしなくてはならないという風なルールを感じませんでした。留学に行く以前に私は山梨YMCAの障害を持った子供たちのツアーに参加しました。メインイベントであった牛の乳しぼり体験をする際に、一人の参加していた子供が、牛が怖くなって泣いてしまうことがありました。最終的には泣きながら乳しぼりをしました。今回の経験を経てそういう状況になったときには、無理にさせるのではなく、他の物で代替えるか遠くで見ているだけでも子供たちにとってはいい思い出になるとわかりました。エコツーリズムについての活動はあまりできなかったのですが、実際にアイオワ州に行ってみて、その自然の少なさに驚きました。それと同時に山梨県の自然の豊かさや日々の生活と自然の距離が近いことを再認識しました。そのため何気ない林や公園・広場でも、子供たちにとっては魅力的な場所となるのではないかと考えました。また、ダウン症を持った子供たちと過ごすうちに、彼らの視点は私達と違って、ユニークで繊細であると感じました。そのため障害を持った子供たちのエコツアーは、私達が日常の中で見過ごしてしまうような自然の美しさを再認識させてくれると思います。

### 3 添付書類

詳細について、図・表・写真などの資料も含めてA4縦版5枚以内にまとめて報告してください。

※パソコン・ワープロの使用可（使用する文字は12ポイントとしてください。）



写真 1 サマーキャンプの様子

ダウン症を持った子供たちの授業の様子についてですが、生徒たちはカメラが苦手だったため写真がありません。